

個別最適化を実現する音楽科における器楽・音楽づくりの指導 ～ICTの効果的な活用をめざして～

高松市立木太南小学校

教諭 武重 知子

1 はじめに

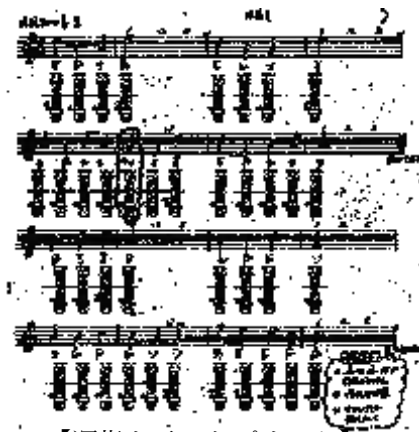
私は、本校に赴任して3年目であり、3～6年生の音楽の授業を担当している。本校の児童は、素直で、真面目であり、言われたことをしっかりこなそうとする勤勉さももっている。しかし、気になったのは、「自分からすすんでやってみよう。」という主体性の低さである。失敗や間違いをおそれ、途中で「もうやりたくない。」とくじけてしまったり、はじめから「どうせできない。」と諦めたりしたりしているような子が実は多くいることが分かった。特に音楽科は、もともとの技能の差が大きく、得意な子だけが楽しい授業になってしまわないよう留意しなければならないと考えた。そこで、誰一人取り残さない、音楽が苦手な子に焦点を当てた個別最適な学びを実現したいと考えた。

私は、個別最適な学びには、二つの視点があると考えている。一つ目は、子ども一人一人の特性に応じて、特にその子の苦手な部分を見取って補う教材や教具、支援の工夫を考える「指導の個別化」である。そして、二つ目は、子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題を設定する「学習の個別化」である。これらの学びの個別化を実現する手段として、ICTの活用が最適であると考えた。個別最適な学びを実現することが、子どもの「やりたい」気持ちを引き出し、学びの意欲化につながると考える。このような個別最適な学びの実現には、ICTの活用が非常に有効であった。数年間にわたって取り組んできた、ICT活用の実践について報告していきたいと思う。

2 実践の内容・方法

(1) 教具や支援で苦手を補う「指導の個別化」

A児は、読譜に課題があり、楽譜を見るだけで「わからん。」「読めん。」と、音やリズムを読むことをあきらめていた。また、「指使いがわからん」と、リコーダーを持つことさえ拒むこともあった。まずは楽器に触れ、少しでも音を出して曲の一部でも演奏できたらと考え、自作の、指使いや階名を示したプリントを用意した。また、模範演奏の動画をTeams上でいつでも見られるように配信を行った。子どもが見てそのまま真似することができるよう、逆手で録画を行ったものである。A児はプリントの階名や指使いを見ながら、お手本の映像を繰り返し見て練習し、リズムや指使いを覚えることができた。また、「ゆっくり」と「ふつう」の速さの2パターンを用意して、スモールステップでの練習を行うことで、「できた」と思える瞬間を重ねていったのである。4年時、「音楽の授業は好きですか？」との問いに「きらい」と答えていたA児が、5年の終わりには「まあまあ好き」と答え、支援が意欲につながったと考えることができる。



【運指を示したプリント】



【オンラインで配信しているリコーダーの範奏動画】

B児は、元気いっぱい人前に出ることや目立つことを好む児童である。合奏での楽器決めでは、目立つ大型の楽器を希望していた。B児に限ったことではないが、合奏の楽器を決める際に、自分の希望ではない楽器の担当になると意欲が低下することがある。そこで、普段あまり触ることのできない大型の楽器をすべての児童が選べるようにすることが、学習意欲の向上につながるのではないかと考え、合奏の楽器編成を考えた。B児は、はじめて木琴の担当となり、「できるようになりたい。」と休み時間にも練習に取り組んだ。タブレット端末で繰り返し範奏動画を視聴し、熱心に練習に取り組み、最終の合奏ではトレモロの技法を取り入れて演奏することができた。振り返りでは、「合奏ではじめて木琴を演奏してうれしかったし楽しかった。」と感想を記した。



【動画を見ながら練習している様子】

C児は、書字が苦手で、ワークシートの枠に字を納めて書くことが難しい。C児ほどでなくても、記譜の作業が難しいと感じている児童は多くいる。そこで、音楽づくりの单元においては、リズムカードを操作することのできるワークシートを活用した。端末上のワークシートには、あらかじめ、楽器の絵カードや、音名、リズムパターンの資料を準備しておく。画面上で操作することで、簡単に消したり入れ替えたりすることができ、その分、演奏に取り組む時間が増え、技術が高まり、思考したり吟味したりする時間もしっかり確保することができた。



【端末上のワークシートを活用して音楽づくりを行っている場面】

楽器	始め	真ん中		終わり
トイ アンブム	全員 同じ	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ● 全員 同じ
ウッド レコーダー	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●
タカトコ		● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●

打楽器の音楽をつくろう

①資料室で楽器から資料を調べよう！
②4種類の楽器をしよう！
③何曲も試してよいものを決めよう！

(2) 児童とともに目標を設定する「学習の個別化」

D児は、人前に出て発言したり発表したりすることに特に苦手意識をもっている。音楽会や発表会など、人前に出る行事が苦手で、練習には参加できているものの、本番では極度の緊張により、本番に参加することができなかった。そこで、D児と相談しながら音楽会に参加できそうな方法を考え、学級ごとに、授業時間内に練習した合奏を録画して編集し、ミニコンサート動画の作成を行うこととした。動画の利点は、合奏、合唱、リコーダー奏など、仕上がるたびに動画に撮りためておき、後から編集することが可能なことである。D児にも、「録画に向けてがんばろう」と声かけを行うことで、具体的なゴールを見据えることができ、練習に見通しをもって意欲的に取り組むことができた。音楽室で、リラックスした雰囲気録画に参加することができ、自信につながったようだ。また、編集した動画を、Teams にアップロードし、自宅に持ち帰って保護者に見てもらい、賞賛してもらうことで、学習意欲の向上にもつながった。



【オンライン上で配信したミニコンサートの動画】

E児は、音楽が大好きで、熱心に器楽練習に取り組み、休み時間などのリラックスした状態ではリコーダーやピアノの演奏をして聴かせてくれる。しかし、器楽のテストとなると、クラス全員の前で、一人で演奏するというのはかなりの緊張を伴うものであり、苦手としていた活動であった。そこで、タブレット端末の録画機能を用いてテストを行った。家庭や、休み時間など、一番リラックスしている状態で録画してよいことを伝え、テストに参加することができた。また、くり返し視聴することができ、指使いや息づかいをきっちりと見取ることができたことは、適正な評価にもつながった。

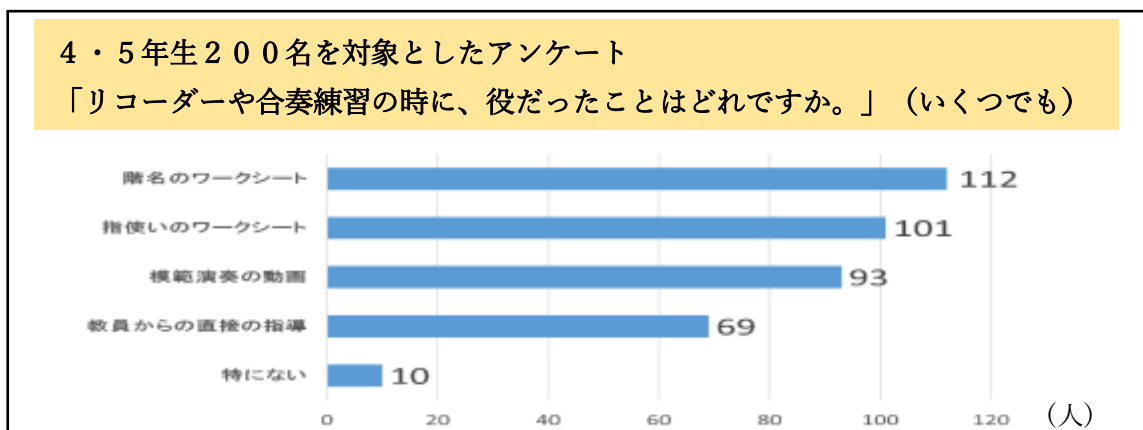


【動画によるリコーダーテスト】

F児は、発想豊かで、発言をよくする児童である。しかし、考えたことを形にするための演奏技術が追いついていなかった。音楽づくりでは、Mussica やソングメーカーなどのアプリを用いて、リズムや旋律づくりを行った。つくりたい音楽が思い浮かぶにもかかわらず、演奏できないからと諦めていた F 児は、演奏の技術面を ICT が補ってくれることで、自分が本当につくりたい音楽に近づくことができた。授業内では8小節の旋律づくりを行ったのだが、持ち帰ってさらに16小節にのぼし、和声やリズムを付け足して大作を仕上げ、満足している様子がみてとれた。また、つくった音楽の URL をコピーして、クラス内の Teams で共有することで、子どもたち同士共有することもでき、つくって聴いてもらう喜びを感じることができた。

3 実践の成果

ICT を活用した様々な支援が、音楽に苦手意識をもっている子どもの個別最適な学びに有効であることは、前述の通りである。当時4・5年生だった200名の子どもたちに、合奏練習の際に必要なとした支援はどんなものかアンケートをとった。(複数回答可。)特に何も支援は必要なかったと答えた児童は全体の5%で、95%の児童は、何らかの支援を必要としていることが分かった。



音楽の授業に対するアンケートでも、音楽が好き・まあ好きと答えた児童が8割を超え、タブレット活用前の7割程度と比べると、増えていることが分かった。

4 普及させたい取組と期待される効果

このように、ICTを活用した支援は、今までできなかった様々な支援を子どもたちに提供することができる。特に、音や動画などを簡単に子どもたちに配布することができるようになったことは、指導の個別化、学習の個別化において非常に有効な活用方法であると考えられる。タブレット端末を活用し始めたことで、音楽を苦手と感じている子どもたちの負担軽減、学びへの意欲化を図ることができていると感じている。教員にとっても、指導においてICTの力を借りることが教材準備の負担軽減につながり、時間の有効活用にもつながるであろう。また、音楽を専門としない教員にとっても、指導の際の一助となると考える。現在は校内のみで範奏動画やオンライン上のワークシートを活用しているが、校外の教員同士でも共有できるようになるとよい。この取組が音楽を愛好する児童を増やすことにつながると考える。

5 課題及び今後の取組の方向

ICT活用については、全国的なタブレット端末導入と相まって、ここ数年で急激に研究が進んでいることもあり、教科書会社が独自の教材を開発したり、配信用の動画を作成したりもしている。子どもたちにとって本当に役立つ教材はなにか、どのような支援が有効なのか、研究を重ねて、日々の授業づくりに取り組んでいきたい。

参考資料 文部科学省 HP

教師向け参考資料(指導資料、学習評価など)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/mext_01317.html